



発行日：平成31年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第10回川のまとめ会を開催しました！

1月25日（金曜日）に第10回川部会まとめの会が豊田市崇化館交流館にて開催されました。今年度の川部会の活動成果報告と次年度の活動計画について話し合い、全体会議に諮る内容について確認しました。

日時：平成31年1月25日（金）12:30～14:30

会議場所：豊田市崇化館交流館 大会議室

参加者：17名（事務局含む）



◆主な意見交換内容

1. 本日の話し合い

■今年度の活動成果報告について

●本川モデル

国交省（総合土砂管理）、愛知県（多自然川づくり）、豊田市（アユ生息環境改善実験）の取り組みについて、目的や進捗状況、成果を情報共有し、意見交換することができました。

また、河道掘削、樹木伐採箇所を現地視察し、環境に配慮した河川整備のあり方について意見交換を行いました。

●家下川モデル

矢作川環境技術研究会の野田さんの協力を得て、「家下川 ～ 歩いて観る、診る、体感するエコツアー～」を企画し、部会員で散策しました。

●地先モデル

昨年に引き続き、山部会が取り組む「流域圏担い手づくり事例集」に川関係の活動団体取材対象に取り入れてもらうとともに、川部会有志の会員が取材、原稿作成作業に参加しました。

●合同部会

矢作川の水質をテーマとした合同部会で、大同大学の吉川さんが矢作川流域の水質（電気伝導度：EC）に関する研究発表を行うとともに、山、海部会員から発表された各種テーマについて、情報共有と意見交換を行いました。

■来年度の活動計画について

●矢作川流域圏の基本活動方針

平成31年度はこれまでの活動成果をもとに10年目の総括を行い、その後「課題解決に向けた取り組み実行（実証）」を継続します。

●流域連携について

市民部会の中で流域連携テーマやイベントについて議論を行います。勉強会と流域連携イベントに関する意見は、市民部会が発信し、各地域部会を横断的につなぐ役割を担います。

●WG活動テーマについて

川部会のWG活動は4回を基準として開催します。また、今まで通り、1年間の総括として全体会議に向けた「まとめの会」を1月に実施します。

WG活動の中で10年目の総括にむけた活動成果のとりまとめに関するワークショップ（意見交換会）を企画します。



2.意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(1) 今年度の活動成果報告について

(・意見 ▶ 回答)

全体会議資料案のうち活動成果報告について事務局より説明があり、意見交換をしました。

《川部会の活動成果について》

- ・愛知県が行った土砂投入実験について、効果が全くわからなかったと記載するのは不正確ではないか。効果は明瞭でなかったというニュアンスが正しいと思う。アユの釣り方に効果があったとか、河床の安定に効果があったというような結果が得られなかったという話であったと思う。地元住民に話を聴くと、あのとき、アユが良く釣れたという話を伺っている。アユのつれ方を論文などように科学的に明確に示すことが難しい。土砂投入実験を行って良かったという見方もあると思う。(内田)
- ・アユの環境改善実験について、矢作川のアユの生息数が減少しているのではなく、アユが釣れなくなったという話であると思う。(高橋)
 - ▶ 瀬でなわばりをはって定着する数が減少しているという話に修正する。(事務局)
- ・高橋上流の現地視察の際のコメントについて、「河床の安定性を示す造網性トビケラを観察し、解説をいただいた。」に修正すること。オオシマトビケラが優占していればかなり安定していることになるが、現在はヒゲナガカワトビケラが優占していることから、深刻なほど安定しているわけではない。(内田)
- ・流域圏担い手づくり事例集の概況報告はいつやったか、日にちを入れておけばよいのではないか。人と人のつながりを学んだとあるが、何をもちて学んだといえるか?
 - ▶ 今年度の事例集の読み合わせ会を1月末に開催予定である。その内容を資料に追記する(事務局)

(2) 9年間の活動報告について

前回WGで委員から提出してもらった9年間の活動で「できたこと」「もう少しできたこと」「できなかったこと」の内容をもとに、意見交換をしました。

- ・最終的には山、川、海とつながりをもった取り組みが必要であるが、現状では流域圏担い手づくり事例集のみがつながりの成果である。川からの問題提議が必要である。山、川、海をつなぐ認識での取り組みができていなかったと思う。(高橋)
- ・実績の中に、平成23年、24年は色々活動に取り組んだ覚えがあるが、その実績がほとんど入っていない。例えば、その当時、河口から矢作ダムまで全て見るという活動を2日間かけて実施している。夏に平谷村にいった実績もある。まずは、現場を見ようということで現地視察したことは入れてほしい。(内田)
- ・土砂に関する議論について、もう少しできたこととあるが、個人的にはわからなかった、できなかったという感覚である。
- ・「土砂の観点から望ましい川の像のイメージを考える」はもう少しできたことに入れても良いと思う。それを本当に実現しようとしたら、土砂がどれくらいあれば、どの程度の砂洲ができるかということは全くできていないことでなければよい。これは懇談会の中で話をするのではないと思う。(鷲見)

(3) 来年度の活動計画について

全体会議資料案のうち今後の活動計画について事務局より説明があり、意見交換をしました。

- ・川の中を流れている水や土砂、水質、また流れないものとして地形と植物。これらが時代によって、どのように扱われてきたを整理することが良いと思う。また、社会条件、人間利用、資源の需要と供給という観点から川がどのように変わってきたかを整理し、これをもとに議論するとおもしろい。WG活動を押しつけて、こういうことを集中して作業するのもよい。(鷲見)
- ・市民と川の関わりの観点でいうと、矢作川のボランティアがいつから始まったかは知らない。自分たちは10年少しである。ここに入っているいろんなことがわかってきた。ボランティアも時代の流れで川を利用するようになったと思う。(伊奈)

今後の流域圏懇談会の予定



■平成30年度 全体会議 (日時)平成31年3月15日(金) 14:30~16:30

場所: 愛知県西三河総合庁舎 10階 大会議室



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 松山、調査係長 服部
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

